

ごみ行政に関する提言書

廃棄物の減量化・資源化について
～ごみ減量のさらなる取り組みへむけて～



平成25年12月10日

大刀洗町議会 総務文教厚生委員会

委員長	花等 順子
副委員長	後藤 晴一
委員	平田 信将
	平山 賢治
	林 威範
	安丸真一郎
議長	長野 正明

提 言

大量生産・大量消費の時代をへて、日本は高度成長し、行政も国民生活も肥大化し、社会は大量廃棄の時代を迎えた。地球環境は、地球温暖化と相まって急速に悪化している。

世界は、焼却主義から再生主義へと移行する中、日本は1200基以上の一般廃棄物焼却炉を持ち、ゴミ焼却を続けている。この数は世界の焼却炉の約3分の2に相当する。焼却大国日本と言われるゆえんである。

安易なごみ焼却中心主義ではごみ減量につながらず、行政は、いつまでも、ごみ行政に多額の財源を充てなければならず、この財政難の時代にあって、政策を見直す必要がある。

併せて、現在の施設の建て替え時の費用負担を考えれば、施設の延命化を図り、次世代の施設建設のあり様を検討しなければならない。

総務文教厚生委員会では、大刀洗町のさらなるごみの減量化・資源化にむけ本町の生活環境係をはじめ先進地を視察し調査研究を重ね、議論し、一定の結論を得て政策提言する。

1 ごみの出し方の改善と啓発

- ごみ分別を徹底する
- 生ごみの水切りを徹底する
- リサイクル品の洗浄・乾燥の徹底をはかる
- びん・缶への異物混入を禁止する

ごみの分別を徹底し、生ごみの水切りをしっかりとすることで搬入ごみの軽減をはかり、サン・ポートの溶融炉を延命化する。

資源ごみの出し方が悪い(洗浄・乾燥)ため、収集業者の集積所で手作業による分別が行われている。それがサン・ポートに運ばれベルトコンベアーに流され再分別されていることから、ごみの出し方の改善と住民啓発を促す。

2 ごみ袋の改善

- 資源ごみ袋の料金値下げ
- びん・缶回収袋の小袋作製
- 雑紙回収袋の作製

資源ごみ袋を低額化することでリサイクル化を促し、燃えるごみを削減する効果がある。また、世帯人数も少なくなり、びん・缶の小袋化の要望の声がある。（今のままでは重過ぎるし、長期間の使用で袋が劣化する。）

雑紙は生ごみに混入されていることから、雑紙専用の回収袋を作ってリサイクルを推進する。

3 生ごみの堆肥化をはかる

サン・ポートの大規模改修、建替え時には生ごみの堆肥化をはかる施設を造ること。

4 ごみ集積所の整備

行政区ごとに設置されているごみ集積所について、雨ざらし対策等一定の規模・形体を標準化し、整備に当たっては補助金制度の拡充をはかること。

5 行政区との協働と地域力の向上

- 資源ごみ回収奨励金制度の創成

行政区のごみ資源化のやる気を高揚するため、資源ごみの売買を行政区に任せるもの。

- 戸別収集の検討

高齢者・障がい者に対応した施策。ごみ出し困難な家庭への支援制度を作るか、ご近所の声かけで問題解決し、地域力向上につなげる。

1 大刀洗町の現状と他都市の事例

(1) 大刀洗町…基本的に焼却処理

5 市町村で設立の甘木朝倉三井環境施設組合ごみ処理場(廃棄物処理センターサン・ポート)を平成 15 年 4 月から稼働。

溶融炉(処理能力・・120t／24h(60t／24h×2 炉))

溶融炉の耐用年数は 15 年程度であり、延命化対策について、施設の大規模改修を 15 年経過頃に基幹的整備事業として予定。

搬入は、収集運搬業者(大刀洗は三輪産業)に委託。

* 24 年度一人当たり搬入量(g／日)・・・前年比2%増

大刀洗町 617、朝倉市 812、東峰村 632

筑前町 735、北野地区 631、 平均 738

24 年度とサンポートが稼働を始めた 15 年度の搬入量を比較すると、総量にして 10%増量しているが、混載をやめ、より分別をすることにより、資源ごみや紙類の量が増加していることがみてとれる。

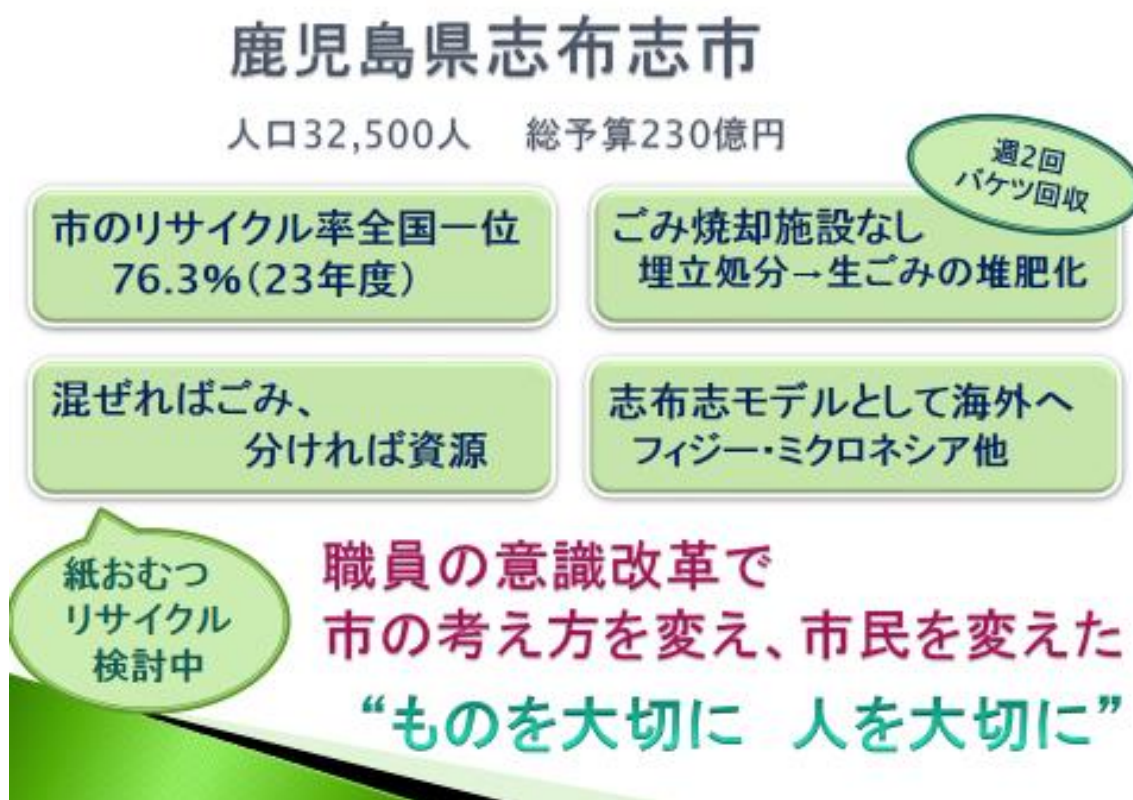
ごみ処理費		搬入量		
	24年度		24年度	15年度
サンポート負担金	1億9,200万円	可燃ごみ	2970 t	2796 t
収集運搬委託料	9,030万円	粗大ごみ	280 t	9 t
ごみ袋等作成費	400万円	資源ごみ	190 t	24 t
その他	2,000万円	混 載	0 t	304 t
計	3億600万円	紙 類	450 t	235 t
(ごみ袋販売収入 4,183万円)		計	3890 t	3368 t

(2) 鹿児島県志布志市・・・ごみを出さない、燃やさない

志布志市はごみ焼却施設をもたず全て埋立て処分をしていたが、平成 2 年に完成した埋立て処分場が平成 16 年に満杯になると推計されたので、処分場の延命化を図るため、分別により埋立てごみを減らす取り組みをした。

生ごみは週 2 回のバケツ回収で堆肥化し、他のごみも徹底して資源化を図ったところ、埋立てごみは 8 割削減され、施設が延命化された。

ごみ処理の基本は資源循環型社会の構築を目指して、平成 18 年度廃棄物処理基本計画を策定し、行政主導により衛生自治会・各単位衛生自治会(行政区)を組織化し、市民と協働の取り組みを徹底した。



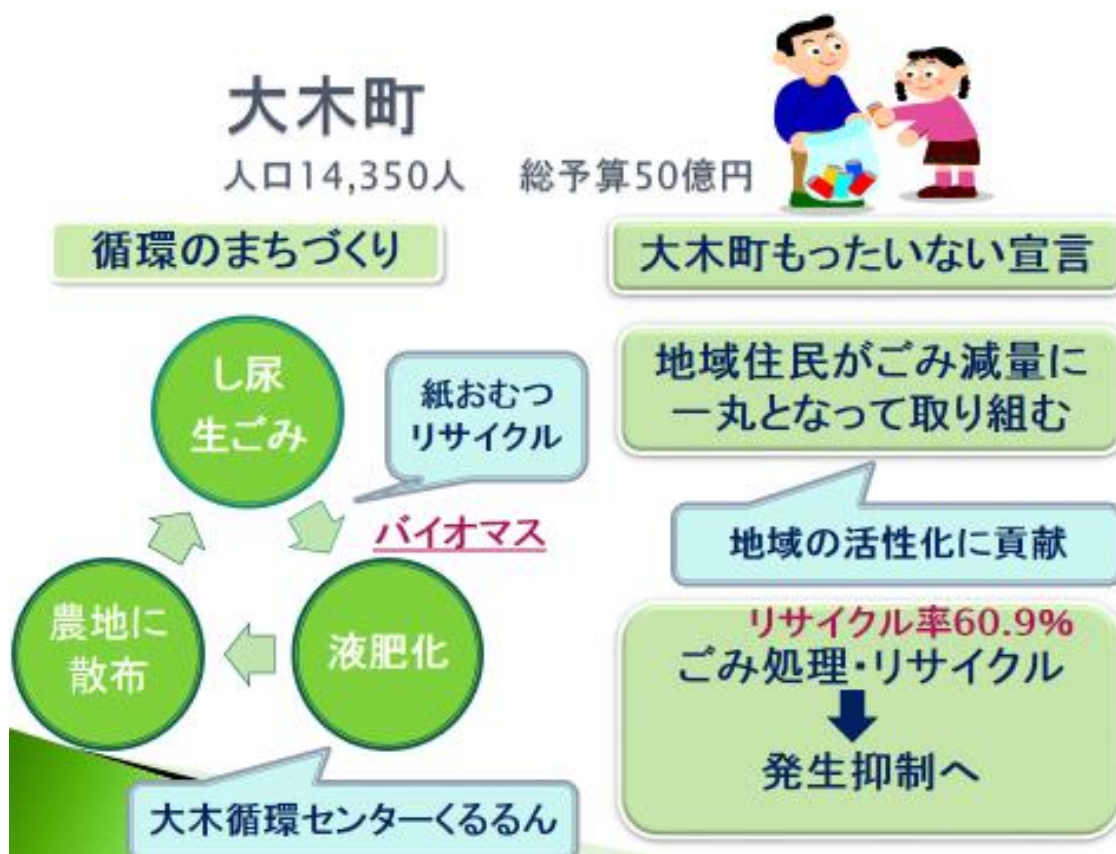
(3) 大木町……ごみゼロを目指し、町ぐるみの循環方式

ごみ焼却炉建て替えを前に、焼却一辺倒のごみ政策を見直し、大量リサイクルから発生抑制へ、ごみゼロを目指して、持続可能な循環のまちを目指して政策が進められている。特に、バイオガスシステムを導入した生ごみの資源化(発酵させ液肥化)を行う循環センターを整備し、焼却ごみを5割削減した。

平成 23 年 10 月から紙おむつの回収を開始し、24 年度は 84t回収している(回収率 72%)。アルミ付き紙パックも回収し、徹底したごみゼロを目指している。

ごみ処理にかかる住民負担を考え、燃えるごみ袋は本町と同じ 1 枚 60 円(小袋 30 円)だが、リサイクル袋は大 50ℓ15 円(中 35ℓ10 円)とし、住民のリサイクル意欲を促している。直接搬入されるごみは 10kgあたり 200 円(本町 50 円)となっている。

高齢者等へのごみ出しサポート事業や、資源ごみの販売を自治区に任せ活動費としての運用を認めるなど、町民が責任と誇りをもってごみ行政にかかわることができる施策を打ち出し続けている。



2 志布志市・大木町・大刀洗町の比較

志布志市・大木町のごみ処理方法は全く違うが、生ごみの堆肥化や徹底したごみ分別で、焼却ごみ(埋立てごみ)は減少し、資源ごみは増加しているのがわかる。伴ってごみ処理費用も大きく減額している。

一方、大刀洗町は、ごみ量も費用も横ばいである。このことから、ごみ処理費用は施策次第で減少することがわかる。

		志布志市	大木町	大刀洗町
焼却ごみ	11年	10,970 t		
	16年	3,628 t	3,101 t	3,045 t
	21年	2,453 t ↓	1,314 t ↓	3,030 t →
資源ごみ	10年	70t		
	16年	6,210 t	541 t	206 t
	21年	7,619 t ↑	2,044 t ↑	215 t →
ごみ処理費用			17年 2億2,800万円	21年 2億7,900万円
	24年	2億7,300万円	1億9,700万円	3億700万円

(し尿処理費を含む)

まとめ

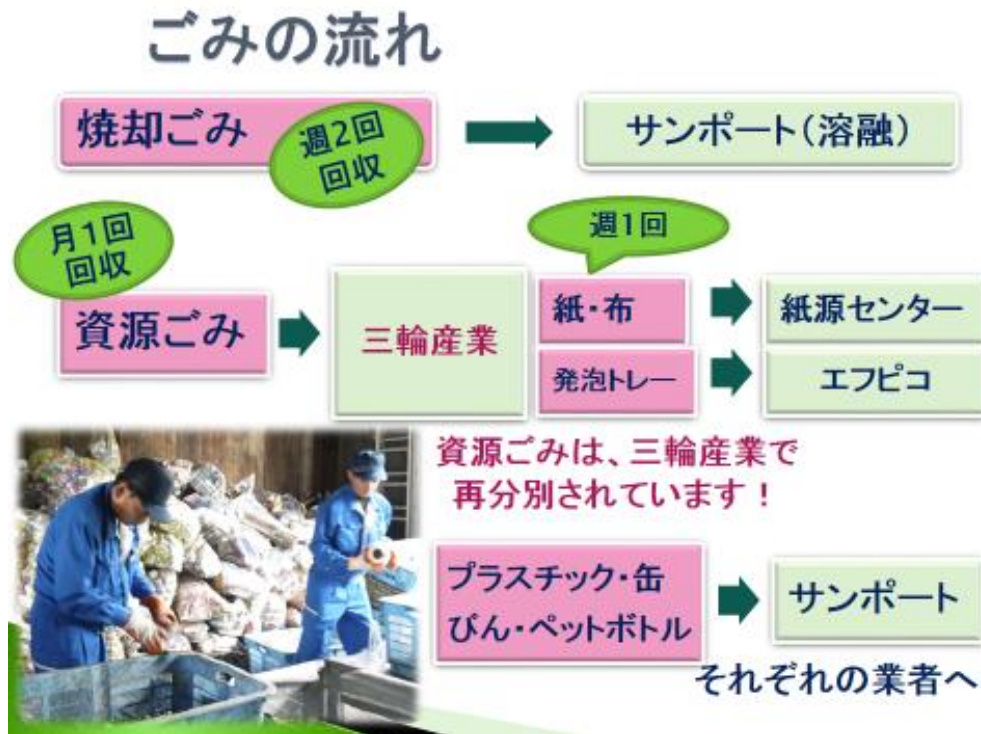
大刀洗町のごみ行政は、資源ごみ(紙類・布類)の路線回収やプラスチック回収をするなど、他自治体と比較して決して劣っていないと思う。また、担当職員や収集業者の努力もあり、快適な住民生活が送れていることに感謝する。

しかし、ごみ問題ほど住民の意識に左右されるものではなく、施策次第で財政へも大きく影響することから、調査を重ね、大刀洗町の問題を洗い出し、他自治体の施策も取り入れて、提言を作成した。

総務文教厚生委員会として、短期的なものから中・長期の展望を視野に入れての提言とした。この提言を真摯に受けとめ、改善できることから順次取組みされることを切に望む。

大刀洗町のごみの流れ

資源ごみの月1回収は、三輪産業の作業所に集められ、従業員によって再分別されている。汚れたびん・缶は雑巾でふき取ったり異物を取り除いたりと大変な作業がなされている。



収集運搬の課題

不燃物収集所

- ・常時開設所は管理、分別ともよくない
- ・屋根なし収集所の改善を
せっかく分別されたものが雨にぬれて再処理を余儀なくされる。

ごみの出し方

- ・水切り、分別の徹底を
- ・ペットボトル、トレイはよく洗って乾かして
- ・カラス対策にはふた付きポリ容器の活用を

調査研究視察先

平成 25 年 1 月 17 日 鹿児島県志布志市
平成 25 年 5 月 22 日 大木町
平成 25 年 5 月 29 日 三輪産業
平成 25 年 6 月 25 日 サン・ポート